

# 持参薬評価テンプレートの記載例

持参薬	<p>【東大病院 老年病科】</p> <p>レミニール OD錠 8mg 1-0-1-0</p>	<p>入院時に6種類以上の内服薬を服用しており、かつ下記の1つ以上の項目に該当する場合は、医師とともに多剤併用に関する薬剤調整の必要性について協議する。</p> <p style="text-align: center;">薬剤調整に関する検討の必要性 ●あり ○なし</p> <p>入院時の内服薬剤数 <b>12</b> 種類</p> <p>(頓用薬や服用4週間未満の内服薬を除き、同一銘柄は1種類と計算)</p> <p>○患者や家族から服薬困難の訴えや薬剤調整の希望あり</p> <p>●65歳以上で、高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」に該当する薬剤あり</p> <p>●服薬管理能力の低下あり(認知力低下や視力障害、難聴、手指の機能障害など)</p> <p>○同効薬の重複投与の観点から、多剤併用に関して検討対象となる薬剤あり</p> <p>●効果や副作用の観点から、多剤併用に関して検討対象となる薬剤あり</p> <p>○薬物相互作用の観点から、多剤併用に関して検討対象となる薬剤あり</p> <p>○患者の疾患や肝・腎機能などの観点から、多剤併用に関して検討対象となる薬剤あり</p> <p>上記該当項目に関する詳細</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイスリー錠が「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」に該当します。</li> <li>・軽度認知機能障害が指摘されており、残薬数にバラツキがみられます。</li> <li>・ご家族より、昼食後服用薬の飲み忘れが多いとのこと。</li> <li>・他院より下肢の搔痒感に対しアレロック OD錠が処方されていますが、現在症状は無いとのこと。</li> </ul>
	<p>【東大病院 糖代謝内科】</p> <p>フェブリック錠 20mg 1-0-0-0 [10mg錠の採用あり]</p> <p>ガスモチン錠 5mg 1-1-1-0 [院内採用=モブアリドケン酸塩錠]</p> <p>タケブロン OD錠 30mg 1-0-0-0 [ランゾラゾール OD錠 15mgの採用あり]</p> <p>センノシド錠 12mg[トワ] 0-0-0-3</p> <p>マイスリー錠 5mg 0-0-0-1 [院内採用=ゾルビテム錠]</p> <p>フェロミア錠 50mg 1-0-0-0 [院内採用=ケン酸第一鉄 Na錠]</p> <p>アーチスト錠 2.5mg 1-0-1-0</p> <p>アムロジピン OD錠 5mg 1-0-0-0</p> <p>タナトリル錠 5mg 2-0-0-0</p>	
	<p>【東大病院 消化器内科】</p> <p>ウルソ錠 100mg 1-1-1-0 [院内採用=ウルソゲオキソコール酸錠]</p>	
	<p>【鉄門病院】</p> <p>アレロック OD錠 5mg 1-0-1-0</p> <p>クレナフィン爪外用液 10% 適宜塗布</p>	
	<p>【赤門眼科医院】</p> <p>カリーユニ点眼 0.005% 1日4回両目点眼 [同効薬=カリンK点眼液の採用あり]</p> <p>サンコバ点眼 0.02% 1日4回両目点眼</p>	
	<p>一般用医薬品・サプリ</p> <p>コンドロイチン ZS錠</p>	
	<p>副作用歴</p> <p>ニフェジピンで筋肉肥厚</p>	
	<p>アレルギー歴</p> <p>なし</p>	
	<p>食品との相互作用</p> <p>アムロジピン OD錠とグレープフルーツジュース</p>	
	<p>お薬手帳の活用</p> <p>●あり(持参) ○あり(未持参) ○なし</p>	
<p>かかりつけ薬局</p> <p>弥生薬局 本郷店</p>		
<p>薬剤管理方法</p> <p>○自己管理 ●自己管理+家族の支援 ○家族管理 ○その他</p>		
<p>特記事項</p> <p>妻が自作した薬箱に1日分の薬をセットし、本人がそこから取り出して服用</p>		
<p>薬剤総合評価</p> <p>病棟薬剤師は持参薬の確認とともに、ポリファーマシーに関するスクリーニング評価を行い、その結果を電子カルテシステムより展開した持参薬評価テンプレートに記載する。</p> <p>(電子カルテシステムを導入していない場合は、自施設で使用している持参薬報告書等に薬剤総合評価部分を組み入れて運用する方法も考えられる。)</p>		

# ポリファーマシーに関するスクリーニング評価

入院時に**6種類以上**服用しており、かつ**7つの評価項目のいずれかに該当**する場合は、薬剤調整に関する検討の必要性**あり**とし、その結果を担当医師と共有する。

薬剤総合評価	<p>入院時に6種類以上の内服薬を服用しており、かつ下記の1つ以上の項目に該当する場合は、医師とともに多剤併用に関する薬剤調整の必要性について協議する。</p> <p>薬剤調整に関する検討の必要性 ●あり ○なし</p>
	<p>入院時の内服薬剤数: <b>12</b>種類 (頓用薬や服用4週間未満の内服薬を除き、同一銘柄は1種類と計算)</p> <p>○患者や家族から服薬困難の訴えや薬剤調整の希望あり</p> <p>●65歳以上で、高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」に該当する薬剤あり</p> <p>●服薬管理能力の低下あり(認知力低下や視力障害、難聴、手指の機能障害など)</p> <p>○同効薬の重複投与の観点から、多剤併用に関して検討対象となる薬剤あり</p> <p>●効果や副作用の観点から、多剤併用に関して検討対象となる薬剤あり</p> <p>○薬物相互作用の観点から、多剤併用に関して検討対象となる薬剤あり</p> <p>○患者の疾患や肝・腎機能などの観点から、多剤併用に関して検討対象となる薬剤あり</p>
	<p>上記該当項目に関する詳細</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・マイスリー錠が「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」に該当します。</li><li>・軽度認知機能障害が指摘されており、残薬数にバラツキがみられます。</li><li>・ご家族より、昼食後服用薬の飲み忘れが多いとのこと。</li><li>・他院より下肢の搔痒感に対しアレロック OD錠が処方されていますが、現在症状は無いとのこと。</li></ul>

7つの  
評価項目

詳細を記載

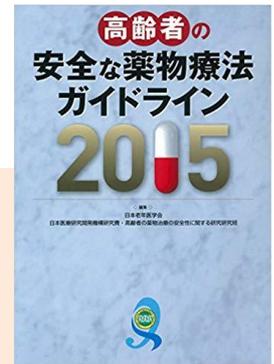
# 7つの評価項目の具体例

- 患者や家族から服薬困難の訴えや薬剤調整の希望あり

例：複雑な用法により、患者や介護者のQOLが低下している  
仕事や生活リズムと服薬タイミングのミスマッチがある  
剤型変更により服薬アドヒアランス向上の可能性が見込まれる  
服薬の負担が大きく、減薬を希望している など

- 65歳以上で、高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015  
「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」に該当する薬剤あり

高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015\*の「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」の対象は、75歳以上の高齢者および75歳未満でもフレイル～要介護状態の高齢者であるが、ハイリスク患者を想定し、基準を明確化するために、当テンプレートでは高齢者（65歳以上）を対象としている。



\* 日本老年医学会, 日本医療研究開発機構研究費・高齢者の薬物治療の安全性に関する研究 研究班 (編). 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015. 東京: メジカルビュー社; 2015

[https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/20150427\\_01.html](https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/20150427_01.html)

- 服薬管理能力の低下あり（認知力低下や視力障害、難聴、手指の機能障害など）

例：認知機能低下による誤薬がみられる  
難聴による用法や薬効に対する理解不足がある  
視力低下や手指の機能障害による薬剤の取りこぼしがある  
持参薬の数にばらつきがある、大量の残薬がある など

# 7つの評価項目の具体例

- 同効薬の重複投与の観点から、多剤併用に関して検討対象となる薬剤あり

例：複数の医療機関から同種同効薬が処方されている  
一般用医薬品と処方薬の成分が重複している など

- 効果や副作用の観点から、多剤併用に関して検討対象となる薬剤あり

例：症状が軽快しており、減薬できる可能性がある  
服用開始後、十分な効果が得られていない可能性がある  
副作用を疑う症状や検査データがある  
処方意図の不明確な薬剤がある  
処方カスケードが疑われる  
非薬物的対応により減薬の可能性がある など

- 薬物相互作用の観点から、多剤併用に関して検討対象となる薬剤あり

例：持参薬において、回避すべき薬物相互作用が生じている  
入院中に投与予定の薬剤と持参薬の併用による薬物相互作用が予測される など

- 患者の疾患や肝・腎機能などの観点から、多剤併用に関して検討対象となる薬剤あり

例：肝機能または腎機能が低下しており、減量、中止を検討すべき薬剤がある など